

磨く 拓く 翔く — 校 訓 —

◇ 松蔭高校の教育目標

確かな学力を備え、明朗闊達で、
多様な人々と協働して学ぶことができる健全で品位ある人間の育成

旧制中川中學校以来培われてきた本校の伝統を大切にしながら、校訓と本校の教育目標のもと、以下のスクール・ポリシーを掲げ学校運営ならびに指導の充実を期する。

1 スクール・ポリシー

(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 ～ 次のような生徒を育てます ～

- ・松蔭三題「時を守る、場を整える、礼を尽くす」を生活の基本とする、社会的に自立した人。
- ・確かな学力を備え、学ぶ楽しさを知り、学ぶべき課題を自ら見出して探究していける人。
- ・確固たる主体性と真の意味での自由を身につけ、多様な人々と協働できる人。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 ～ 次のような学びを実践します ～

- ・65分授業を活用した主体的・対話的で深い学びを通して、進路実現に向けた十分な学力と教養を“磨き”ます。
- ・「理数探究」「総合的な探究の時間」などの教科横断的な学びを通して視野を広げ、自分と社会とのつながりを意識しながら適性や興味・関心を見極め、将来を切り“拓く”ための課題解決力を養います。
- ・社会で大きく“^{はばた}翔く”ため、生徒会行事・部活動などを通して、主体的な判断力や責任感を養い、多様な人々のあり方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育みます。

(3) 入学者の受け入れに関する方針 ～ 次のような生徒の入学を期待します ～

- ・自らの将来像を真剣に考え、学習に熱心に取り組む人。
- ・自ら学ぶ姿勢と、自らを活かしたいという意志がある人。
- ・生徒会行事・部活動などに主体的に取り組み、成果をあげようと粘り強く努力する人。

2 本年度の重点目標

下記のような直面する課題に積極的に取り組み、時代や社会の要請と地域の信頼及び期待に応えるとともに、ホームページや体験入学、中学校訪問などを広く活用して『部活動の盛んな進学校』としての教育活動の成果・特色・魅力を積極的に発信する。

- (1) スクール・ポリシーに掲げる生徒の育成と教育課程の編成及び実施に向け、学校の教育活動のすべてにおいて、各教科・分掌・学年等がそれぞれの立場で意識的に方策を計画・実践し、成果を検証して翌年度につなげるよう努める。特に、各学年での探究学習・教科横断的な学びについては、進学校におけるキャリア教育活動の役割を大きく担っていることにも注目し、授業担当者だけでなく、担任はもとより学年・関係分掌とも連携をとって、生徒が授業で学んだ事柄と「進学する意義」や「働くこと」との接点が見出せるよう指導に努める。
- (2) 新しい教育課程の趣旨をふまえ、観点別評価については、まずは各教科で、単元や題材の内容や時間のまとまりなどを見通しながら評価の場面や方法を工夫して学習指導マネジメントシート（年間学習指導計画）を作成する。その上で、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図ることで資質・能力の育成に生かせるよう努める。また、生徒の学びの振り返りに資するような授業アンケート及び授業研究の活性化に向けた、授業公開期間の設置について検討する。
- (3) 進路指導については、これまでの進路ガイダンスや進路相談とともに、locus オンラインシステムや学びの基礎診断テスト等を活用し、生徒一人ひとりが自己の在り方・生き方を考える機会の充実を図る。また、夏季補習や土曜学習会等、生徒の進学支援に係る取組については更なる効果的・効率的な企画・運営について検討を進めるとともに、変化の激しい大学入試制度や入試動向について、教職員が最新の情報を共有する機会の充実に努める。
- (4) 生徒の主体的な判断力や責任感を養い、多様な人々のあり方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育むため、HR 活動や各委員会活動を一層活性化させるとともに、生徒会議会の運営についても活気ある活動の場となるよう努める。また、部活動については、部長会を活用して各部部長のリーダーシップの向上を図り、活動内容の精選や下校時刻の遵守、部室の使い方など施設の点検と整備、怪我や感染拡大の防止などについて意識を高め、部活動全体の安全意識や練習効率の向上をめざす。
- (5) 生徒一人一台タブレットについては、教科の特性に合わせた授業等でのICT活用を積極的に進めるとともに、感染症による出校停止措置を受けた生徒への学習支援の充実に努める。
- (6) 心身の不調等により欠席が多い生徒については、学年、教育相談担当、保健室、教務部、生徒指導部、管理職及びスクール・カウンセラー等が連携して組織的な対応を図る。
- (7) 教職員の在校時間の適正化と多忙化解消を図るため、業務改善に向けた取組として、新校務支援システム（スクール・エンジン）の活用を一層進めていくとともに、学校行事や生徒会行事の在り方については、コロナ禍の中で経験した実施方法を参考にしながら改善する視点で検討していく。また、庶務部の校務支援員の活用を継続するとともに、外部機関やPTAの人材活用についても各分掌で積極的に検討する。